

941



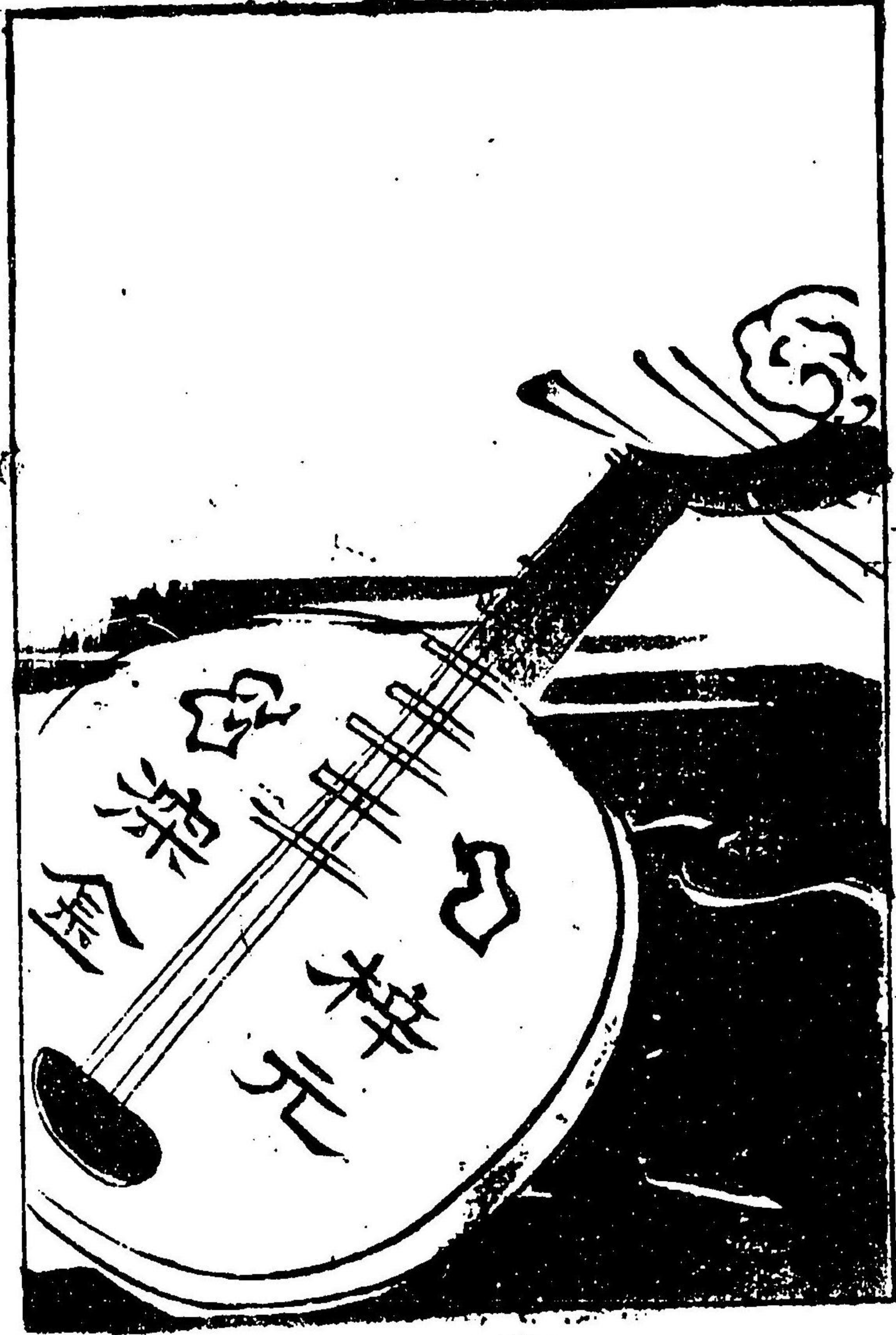
其狂猫傳

金華堂
國文堂

左
頁



明治二十三年三月七日
3/57











かまの方

家のま
 りみ入ひ
 あく
 母の番
 鏡に向
 い顔ある
 泣口おれ
 我手小つて



高知

折らざる
 時
 飛
 とひり
 刀切
 家根
 妖
 見
 古
 てあり
 妖怪



きりつゝるとうりやうりか
と切付たが叶ぬ処と妖怪の鏡と
かろきと受留

伊藤左右太

十
と刀ふ手太の
ありかたの妖怪ふ手と追

伊藤左右太
此怪物の為
大空高
山藩中



程彼の怪
物の行衛と
尋たんと兼て信止る牛瀬不動尊三七日の荒行せ
小不思議や不動の霊夢まで声城の未申み當る嶮山

三



伊藤左右太

の重役
 城内
 のは
 家
 三人
 武勇と忠
 義と賞
 主人
 殿
 悦



依賀

高木三平

小森之丞

神通自在
 怪猫も終
 度小切付
 三男

佐賀

たまひ實なるの變化の我家
不潔く使せんと我を苦しめ
しうへむむ小森が母と
をも命たちる怪猫と
容易討得し三人り切
感ぜざるお余りありと
小森へ御加増賜
木馬廻りへ古出
れ又伊藤藤の
の上是の御加増
賜りて嵯峨の御家
の方々歳愛度入今
も栄えける



猫大明神

猫大明

明治十九年十二月十五日 神届

浅草区元町十二番地
編輯兼出版人 牧金之助

